

NEXT10のあゆみ(2014-2023)

■ 教 育

中京大学は、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」に立った「中京大学の理念」を基礎とする発展的教育を確立・推進しています。学生一人ひとりが本学の理念と歴史を学び、建学の精神を体現する人材として社会に進出し活躍できるよう自校教育「中京大学を知る」を開講し、これまで2,000人以上が履修してきました。また、本学の教育理念の実現と教育活動の質向上を目的として、教育推進センターが授業改善のためのアンケートの実施やFDセミナーの開催などの取り組みを行ってきました。

学部・学科の新設及び改組では、全学部横断的に学生の主体性をもって幅広い知識を修得できるよう、教養教育研究院を2020年度に設置しました。さらに、日本社会の多文化化・多言語化がみられる時代において、2014年度、現代社会学部に国際文化専攻を設置、2020年度には国際学部の設置やグローバル教育センターの設立など行い、日本語を含む言語教育全般の強化、自国文化・異文化理解教育の推進、海外及び日本からの留学を実質化させる教育の保証を図りました。

また、中京大学と附属高校の教員が、7年一貫教育推進委員会のもとで中京キャリア発達プログラム「+ME」を共同開発しました。単位認定型先行授業や高大連携学部授業などを附属高校の生徒に展開し、高大連携プログラムのさらなる充実を図っています。

■ 研 究

中京大学の諸活動の基盤は、教員の独創的・創造的な研究にあります。教員の研究活動を支援するとともに次代を担う研究者の研究環境を整備することにより、力ある研究を推進しています。研究成果は、中京大学研究者業績データベースの全面的な改修や学術情報リポジトリの整備等によって広く発信され、これまで以上に社会に対する研究業績の可視化を実現しました。

また、学長が教員に対して積極的な応募申請を促すことで科学研究費獲得実績の増加を目指し、獲得に向けた各種説明会やセミナーの開催、2018年度からの奨励研究費制度の構築等によって、2013年度と比較して、現在では獲得金額が1.5倍(2022年度実績:約1億7千万円)に増加しました。同様に学外研究費の獲得実績として、産官学連携による受託共同研究費の獲得金額は2.2倍(2022年度実績:約1億1千万円)となり、国・地方自治体・企業等との連携活動がより推進されました。

研究支援制度においても、2015年度に設置した研究振興委員会及び先端共同研究機構により、研究推進の加速を目的とした制度構築を進め、戦略的研究や先端共同研究機構プロジェクトをはじめとした多岐に渡る研究費助成制度やRA雇用やパイアウト制度導入など幅の広い支援制度を整備しました。



NEXT10のあゆみ(2014-2023)

■ 大学院

本学のホームページや進学説明会などにおける情報発信による大学院進学希望者増加に向けた施策を展開しました。2015年度には新たに大学院委員会と事務組織に大学院事務課(現 教務センター)を設置し、大学院に関連した諸課題に対応する体制を整備しました。2024年度には既設の人文科学系及び社会科学系の研究科を再編・統合し、人文社会科学研究科を開設します。また、大学院学生を研究者として育成するための環境整備の一環として、在学中の研究費を助成する制度や修了後に研究員として雇用する制度などを構築しました。

■ 国際化

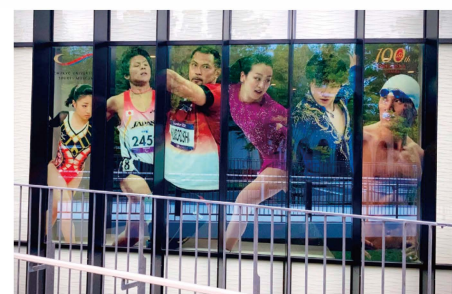
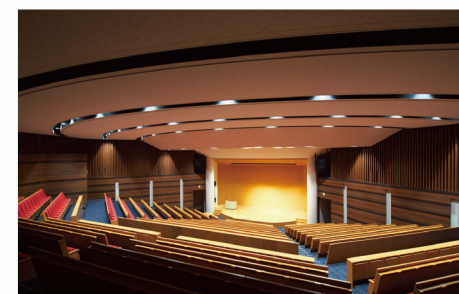
現在7か国19校の個別協定校と学生交流コンソーシアム(加盟大学全世界50か国300校以上)による交換留学を実施しています。海外留学・研修プログラムの充実を図るとともに、TOEFL・IELTS対策オンライン講座の開設や交換留学チャレンジ奨励金の創設、交換留学生や認定留学生の学費負担軽減といった制度構築を行うことで、学部を問わず海外留学・研修に参加しやすい環境づくりを進めています。また2020年度には国際学部国際学科GLS専攻を設置し、英語のみで学位が取得できる課程を開設しました。

■ 学生支援

学生サポートセンターを設置し、障害を持つ学生を含めた全学生の修学や学生生活における悩み等に対する相談体制の整備・拡充を行いました。学生への経済的支援としては、コロナ禍において家計が急変し、修学が困難となった学生を対象とした中京大学特別給付奨学金の創設や国による修学支援新制度の活用促進を行いました。また、学生の挑戦を奨励する中京大学チャレンジ奨励金制度も新設しました。正課外活動においては、文化会・体育会活動等の積極的な広報や中京大学の目指す競技力向上と社会貢献活動の推進を目的とした「CHUKYO 6 SPORTS」の創設などを実施しました。

■ キャリア教育・支援

キャリア教育とキャリア支援を有機的に連携させることで、自ら考え、行動する人材を育成し、社会に送り出していく組織・体制づくりを推進しました。キャリア科目については、キャリア教育・支援委員会が主導となり、2022年度に全学部学科に導入しました。また、低年次生から学生がキャリア形成を意識できるよう、企業接点型のイベントの対象学年の拡大やポータルサイト「キャリア・ナビ」での低年次生を含めた幅広い情報発信を行うことにより、入学から卒業に至るまで学生のステージに応じたキャリア支援を充実させました。



■ 学生の受け入れ

これまで、現代社会学部の専攻設置、国際学部の新設、スポーツ科学部の学科増設等による時代に見合った学部再編を実施してきました。入試選抜の見直しにおいては、リーダーシップの発揮といった社会で活躍できる資質を持った人材の受け入れを目的とした総合選抜型入試の導入を通じ、高大接続入試を拡大してきました。また、中期的な入学定員計画を策定し、中長期的な観点で学部・学科の入学定員の見直しを図りました。

■ 社会連携

スポーツ分野における取り組みとして、地域スポーツへの貢献活動を通じた豊田市との連携の強化や豊田キャンパスでのスポーツミュージアムの開館、インクルーシブ社会の実現に寄与することを目的にスペシャルオリンピックス日本との連携協定などを行ってきました。本学の特色のひとつであるスポーツを活かした地域貢献活動としては、豊田キャンパスにおいて子どもを対象にしたスポーツフェスタや豊田市内の小学校にてかけっこ教室の開催などを行っています。また、国・地方自治体・企業等との協働によって、受託・共同研究やゼミ活動を中心に、社会課題の解決に資する産官学連携を実施しています。

■ 卒業生連携

卒業生に対しては賀詞交歓会や名刺交換会といった交流の場を通じて卒業生同士の絆を深めると同時に本学の今を知ってもらう機会を創出し、卒業生・在学生が共に参加可能な「東京五輪・北京五輪壮行会」をオンラインで実施するなど、デジタル技術を活用した持続的な活動に努めました。また、卒業生と在学生をつなぐことを目的とした意見交換会などの交流イベントを企画・実施してきました。これからも校友会組織を中心とした卒業生との連携を一層強化し、世代を超えたChukyoアイデンティティを醸成していきます。

■ 管理運営

学長のリーダーシップのもと、教学審議会、教学調整会議、学長会議及び内部質保証会議の設置や学長補佐制度の導入などを行い、教育研究活動の質向上を目的とした様々な改革を進めてきました。また、学校法人梅村学園危機管理規程の制定による危機管理体制の整備や耐震対策、バリアフリー化、省エネルギー対策などによる安心・安全なキャンパスづくりを計画的に推進してきました。財政面では補助金の獲得をはじめとした多様な財源による収入増に向けた取り組みを進めてきました。また、大学運営業務についてDX(デジタル・トランス・フォーメーション)を推進し、学生生活における利便性向上と教職員の作業負担軽減を図りました。